

Ⅳ－19 徳島～阪神間の高速バスサービス水準に対する住民意識分析

徳島大学大学院 学生員○高田知徳
徳島大学大学院 正会員 廣瀬義伸

徳島大学大学院 学生員 中西裕之
徳島大学大学院 正会員 近藤光男

1. はじめに

わが国では、鉄道や航空機、旅客船、乗合バスなどの様々な交通機関が都市間を結ぶ利便性の高い手段として発達しており、現在も交通輸送サービスレベルの向上が行われてきている。このような状況では、各地域間における交通体系の整備状況が交通機関の利便性に大きな影響を与えるとともに、迅速性、定時性、安全性、経済性等多くの面でモビリティを飛躍的に向上させると考えられる。

そこで、本研究では近年、高速道路網の整備とともに都市間ネットワークが拡大している高速バスに着目し、利便性を高める高速バスサービスに関する提案を行う。対象地域は、高速バスが主要な交通機関として機能している徳島～阪神間とした。この地域は、鉄道や航空サービスの低い地域であるため、高速バスの果たす役割は非常に重要なものとなっており、確実に路線数や便数が増加しつつある。しかし、高速バス関連サービスについては、まだまだ十分なものとはいえず、利便性の向上を検討する必要がある、より望ましい高速バスネットワークや運行システムなどの改善への期待は大きい。

2. 研究の概要

本研究ではまず、全国幹線旅客流動を用いて徳島～阪神間における旅行特性と交通機関の利用の変化を調べ、高速バスの現状を把握する。次に「高速バスに関するアンケート調査」を、徳島県在住の住民を対象に実施し、高速バスに対する住民意識の意向を調査した。また、徳島広域都市圏交通マスタープランによる「高速バスの利用実態調査」による高速バス利用者の意向も参考にし、そしてこれらを総合して徳島～阪神間における高速バスの利便性を高める高速バス関連サービスの提案を行う。

3. 徳島～阪神間における交通機関の変遷

国土交通省の全国幹線旅客流動調査を用いて旅客流動量の変化を調べる。1998年（平成10年）の明

石海峡大橋開通により、幹線旅客船の流動量が激減し、幹線バスの流動量が増加している様子から、交通体系が、海上交通から陸上交通（高速バス）へ変化していることがわかった。

4. 高速バスの利用に関する住民意識の意向

平成16年11月に実施 表1 アンケートの概要

した徳島県住民を対象とした高速バスの利用に関するアンケート結果を示す。	実施年月	平成16年11月
	配布数	2,500部
	回収数	701部
	回収率	28.04%

す。アンケートの概要については、表1に示す。

回答者の属性では、高齢者の割合が高く、自由に使える車を持っている人が85.1%と高い割合となった。また、回答者の約9割が年に一度は徳島～阪神間を移動しており、その際の交通機関は、高速バスが約7割、自動車が約2割で、高速バスの利用の高さが伺えた。

高速バスの路線や便数に関する運行体系、および停留所の数や場所に関しては、ほとんどの回答者が「現状でよい」と答えた人が多く、運賃に関しては「高い」と答える人が多かった。また希望する運賃に関しては、現状より1～2割程割引してほしいという意見が多かった。

次に徳島～阪神間において、現在導入済および未導入の高速バスサービスに関する徳島県住民の意識について図1に示す。導入済みのサービスで認知していなかった人については今後の利用検討を、未導入のサービスについては、導入された場合の利用検討を聞いている。利用検討割合が回答者の半数以上を占めているのは、往路と復路が異なっても利用できる往復乗車券である「トライアングルきっぷ」と出発地から目的地までノンストップで行ける「直行便」であり、今後の導入効果が期待できる。また、現在導入済の「モバイルチケットサービス」や「インターネット乗車票発行サービス」の利用検討割合が低いのは、回答者に携帯電話やパソコンを持っている割合が低いと思われる高齢者が多かったことと、

導入開始後1年半くらいしか経過していないことが考えられる。

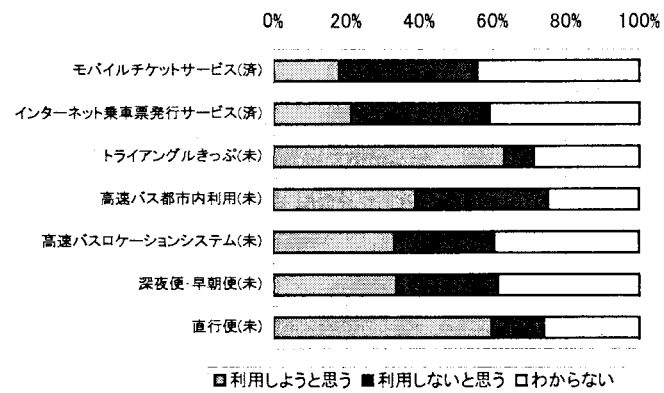


図1 高速バスサービスの利用検討 ※(済):導入済、(未)未導入

5. 利便性を高める高速バスサービスの提案

徳島ー阪神間の高速バスにおける現状を踏まえて、今後においての高速バスの利便性を高めるサービスについて検討した。

乗車券関連サービスについては、導入希望者の多かったトライアングルきっぷの導入や、予約システムの簡素化が望まれ、それに対応したプリペイドカードの導入も効果があると考えられる。

高速バスの運行体系については、深夜・早朝便の導入希望が多かったことなどから、運行時間帯の拡大が望まれる。また渋滞情報や空席情報の分かるバスロケーションサービスを導入すれば、利便性の向上が期待できる。表2に高速バス関連サービスについての改善策を示す。

表2 高速バス関連サービスについて

乗車券関連サービスについて
○プリペイドカードの導入
○発券所の集約・統一
○トライアングルきっぷの導入
○フリーきっぷの導入
○乗り継ぎ乗車券の導入
○予約システムの簡素化
○ポイントカードシステムの導入
運行体系について
○運行時間帯の拡大
○高速バスの都市内利用
○新規路線の開設
○バスロケーションシステムの導入
○女性専用車両の導入

高速バス停の改善策については、各バス停においての改善策が必要である。表3は、徳島側の高速バス停における高速バス関連サービスの改善策について

て示している。

表3 徳島側高速バス停におけるサービス改善策

徳島駅高速バス停
○利用者専用駐車場の設置(割引制度の導入、低料金)
○バス停の改善(集約や統一)
○観光情報センターの設置
○発券所・予約センターの集約、予約受付時間の拡大
松茂とくとくターミナル
○駐車場スペースの拡大
○利用時間帯の延長
○路線バス等との接続
高速鳴門バス停
○駐車場スペースの拡大、利用時間帯の延長
○案内所に乗車意思ボタンなどの設置
○バス停の改善(ベンチの増設、冷暖房の設置など)
○路線バス等との接続
徳島マリンピア(沖洲)バス停
○発着路線の拡大、増便
○直行便の導入
○駐車料金の値下げ、無料化

主な改善策として、パークアンド高速バスライド(以下P&BR)を含めた高速バス利用者のための駐車場スペースの拡大がある。

特に徳島マリンピアバス停では、760台もの駐車スペースがあるにも関わらず、発着する高速バス路線および便数はごくわずかで有効活用されていない。松茂や高速鳴門の駐車場では、週末になる満車になるなどの問題が起こっている現状を考えると、徳島マリンピアを有効活用し、利用者の分散を図り、よりスムーズな移動ができる環境を整えるべきである。

6. おわりに

以上のように、本研究では、徳島ー阪神間の高速バスの利用特性とサービス向上に対する徳島県住民の意識分析、そして利便性を高める高速バスサービスの提案を行った。今後は、今回の分析結果および提案を踏まえて、サービス導入前後の意識変化やバス停施設等の配置評価などを考慮し、総合的な高速バスネットワークの構築を行うことが重要である。

参考文献

1) 第3回全国幹線旅客純流動調査. 国土交通省
2) 徳島広域都市圏都市交通マスタープラン. 2004年